

**2019年3月期第1四半期
決算説明会**

**パイオニア株式会社
代表取締役 兼 社長執行役員
森谷 浩一**

2018年8月6日

本日の発表のポイント

1. 2019年3月期 第1四半期 連結決算実績:

- 売上は、ホームAVは減少したが、カーエレクトロニクスでテレマティクスサービスやOEM事業が増加し、前年同期並み
- 営業損益は、主にOEM事業における減価償却費の増加や、為替の影響により、前年同期から損失が拡大
- 当期純損益も、営業損益の悪化や、特許訴訟関連損失引当金繰入額ならびに競争法関連損失等により、損失を計上

2. 2019年3月期 連結業績予想:

- 売上、営業損益は、前回予想を据え置き、当期純損益予想の開示も留保

本日の説明

1. 2019年3月期 第1四半期連結決算
2. 2019年3月期 連結業績予想

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報や将来の事象等の結果としてこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2019年3月期 第1四半期連結決算

2019年3月期 第1四半期：連結業績概要

(単位:億円)

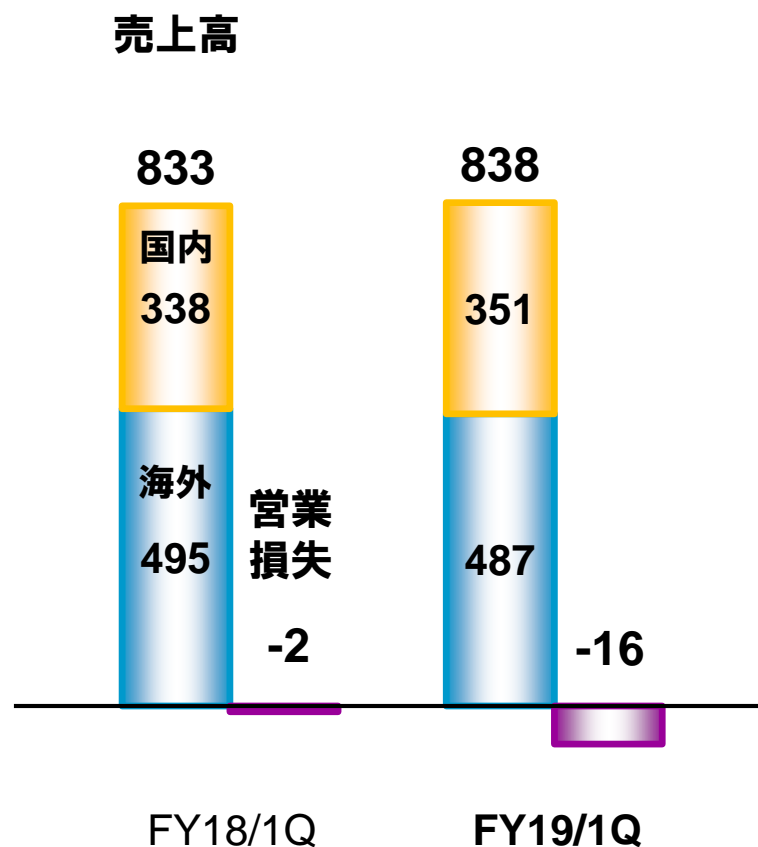
	前年同期	当四半期	前年同期比
売上高	833	838	100.6%
営業損益	-2	-16	-
経常損益	-12	-20	-
当期純損益*	-20	-67	-

1株当たり純損益*	-5.54円	-17.61円	-12.07円
ROE	-9.9%	-34.3%	-24.4%
1株当たり純資産	223.62円	198.06円	-25.56円
ROA	-2.9%	-9.5%	-6.6%

* 親会社株主に帰属する当期純損益

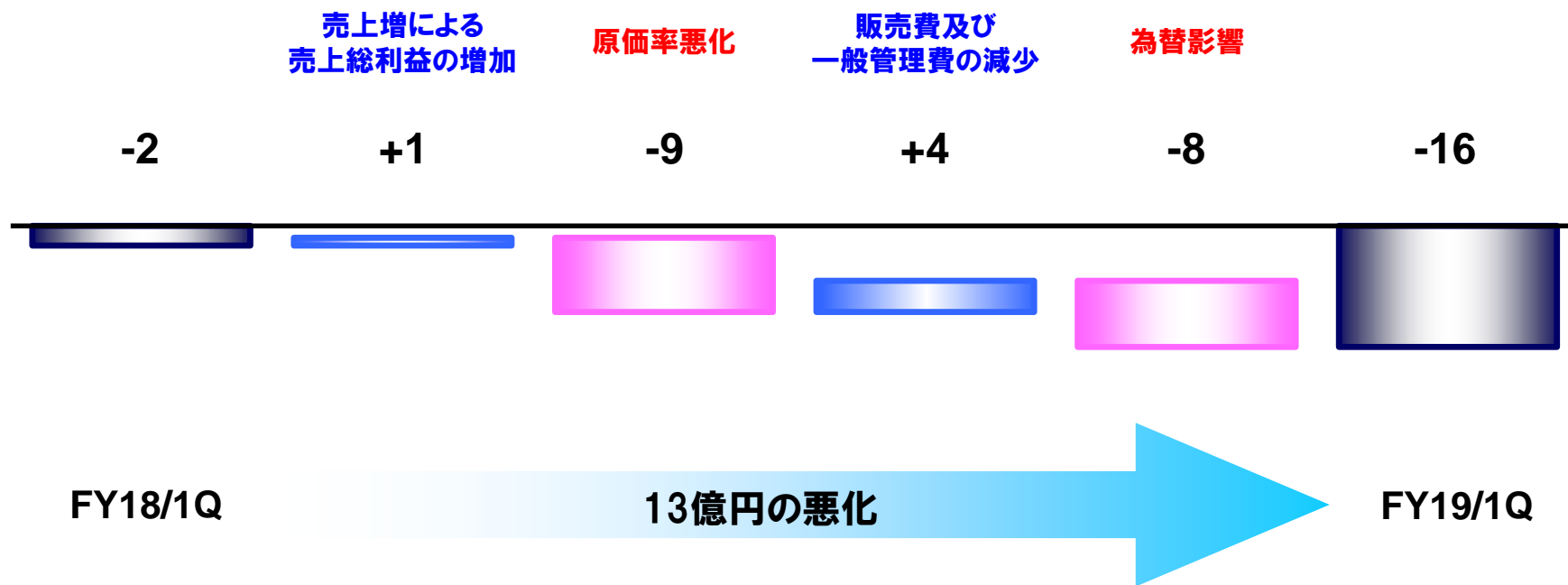
為替 平均レート	1米ドル	111.09円	109.07円	-1.9%
	1ユーロ	122.19円	130.06円	+6.1%

(単位:億円)

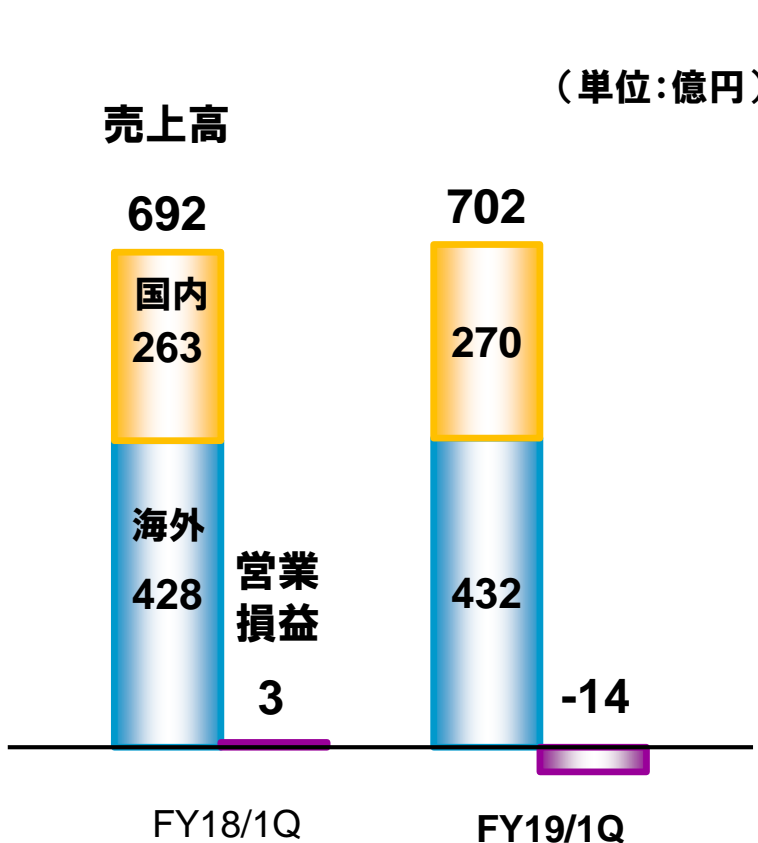


2019年3月期 第1四半期：営業損益増減要因

(単位：億円)



2019年3月期 第1四半期：カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 61% (前年同期 60%)

前年同期比	102% (国内 103%、海外 101%(現地通貨ベース 101%))
増収要因	OEMカーオーディオ、テレマティクスサービス
減収要因	市販カーオーディオ OEMカーナビゲーションシステム 市販カーナビゲーションシステム

< 営業損益 >

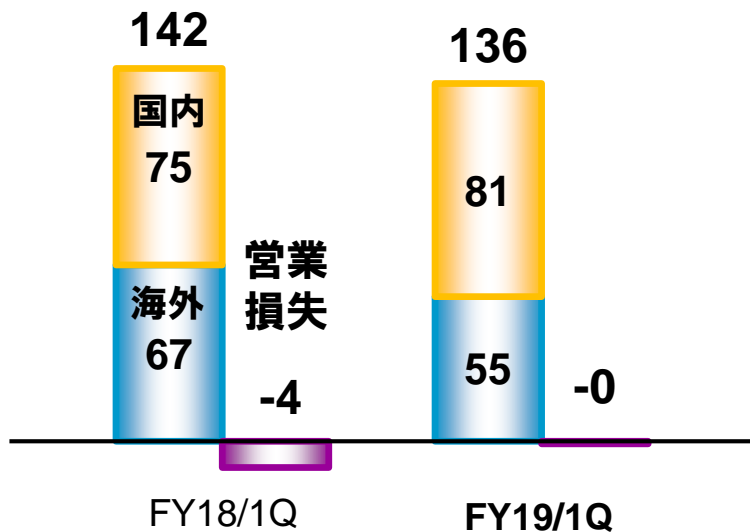
前年同期比	16億円の悪化
良化要因	売上増による売上総利益の増加 販売費及び一般管理費の減少
悪化要因	原価率の悪化 為替影響

※ 当セグメントに含まれる主要製品およびサービス:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カースピーカー、テレマティクスサービス、地図ソフト

2019年3月期 第1四半期：その他

(単位:億円)

売上高



< 売上高 >

前年同期比	96% (国内 108%、海外 82%(現地通貨ベース 81%))
増収要因	FA機器、DJ機器(生産・販売受託)
減収要因	ホームAV、電子部品

< 営業損益 >

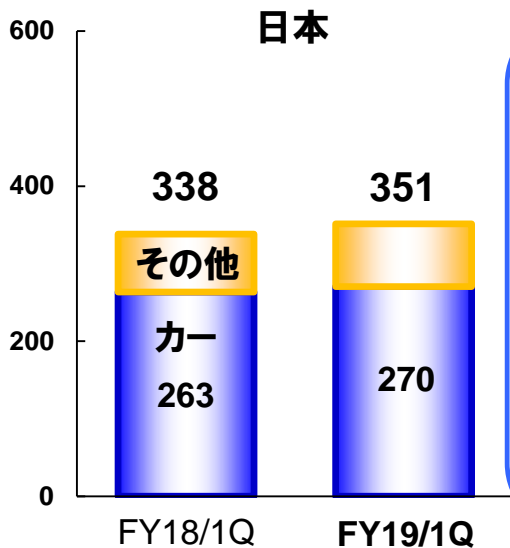
前年同期比	4億円の良化
良化要因	原価率の良化 販売費及び一般管理費の減少
悪化要因	為替影響 売上減による売上総利益の減少

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
光ディスクドライブ関連製品、FA機器、電子部品、
有機ELディスプレイ、DJ機器(生産・販売受託)、ホームAV

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2019年3月期 第1四半期：地域別売上高

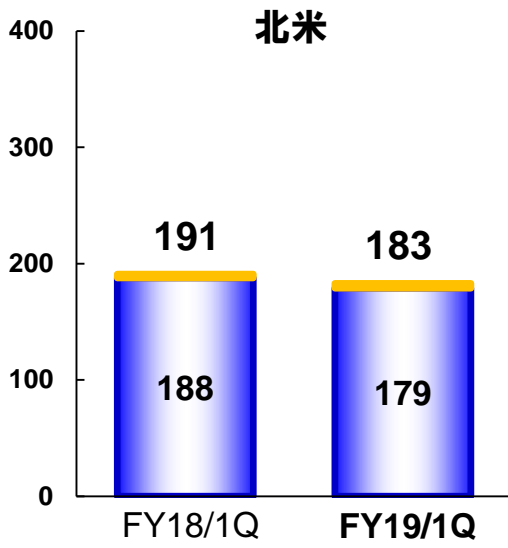
(単位:億円)



前年同期比
104%

増収要因
テレマティクスサービス
FA機器
市販カーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ

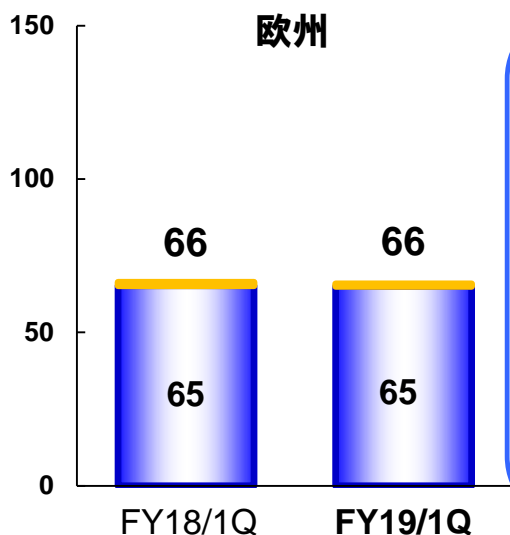
減収要因
OEMカーナビゲーションシステム



前年同期比
円ベース: 96%
現地通貨ベース: 98%

増収要因
市販カーオーディオ
FA機器

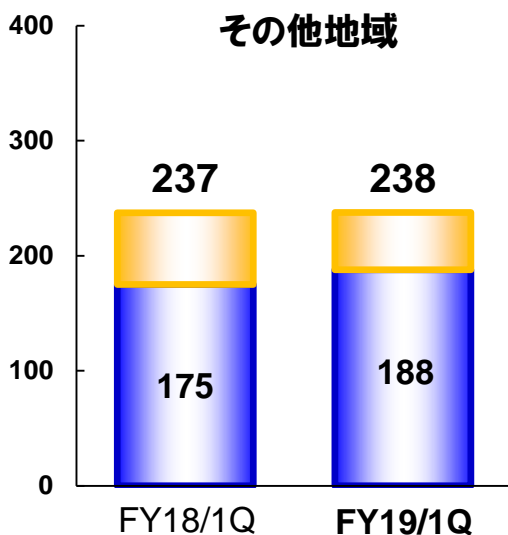
減収要因
OEMカーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ



前年同期比
円ベース: 99%
現地通貨ベース: 95%

増収要因
OEMカーオーディオ

減収要因
市販カーナビゲーションシステム
市販カーオーディオ



前年同期比
円ベース: 100%
現地通貨ベース: 100%

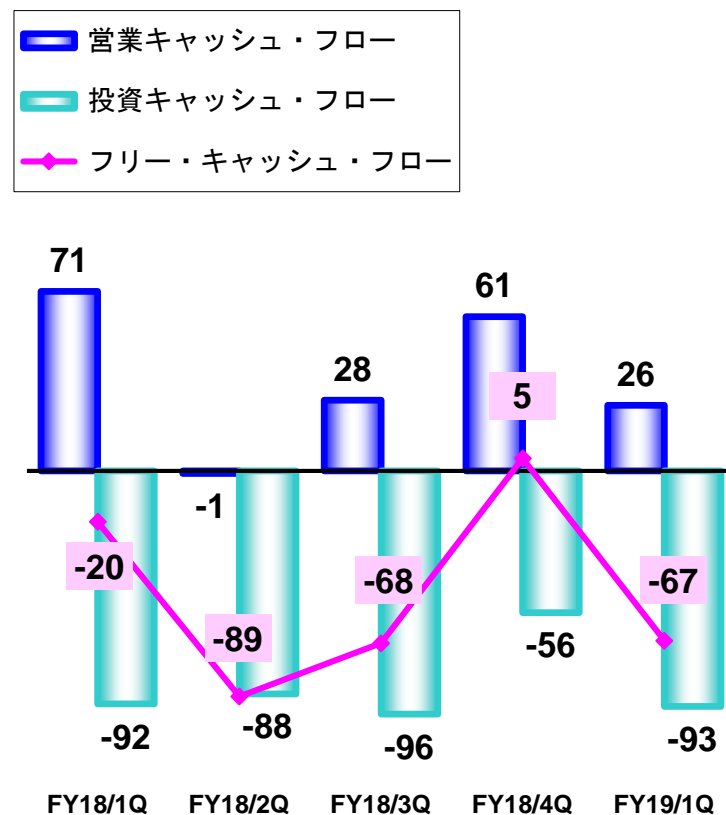
増収要因
OEMカーオーディオ
OEMカーナビゲーションシステム

減収要因
ホームAV
市販カーオーディオ

2019年3月期 第1四半期：キャッシュ・フロー

	前年同期	当四半期
税金等調整前当期純損益	-15	-56
減価償却費	46	56
売上債権の増減	115	92
棚卸資産の増減	-33	-34
仕入債務の増減	-19	-32
未払費用の増減	-31	-7
その他	9	7
営業キャッシュ・フロー	71	26
投資キャッシュ・フロー	-92	-93
財務キャッシュ・フロー	14	2
現金・現金同等物の換算差額	3	-0
フリー・キャッシュ・フロー	-20	-67
現金・現金同等物の増減	-4	-65
現金・現金同等物の残高	381	291
NETキャッシュ残高	-13	-212

(単位:億円)



2. 2019年3月期 連結業績予想

2019年3月期：連結業績予想

売上および営業損益の予想は、前回予想(5月14日)から、変更ありません。

(単位:億円)

	FY18実績	FY19予想	前期比
売上高	3,654	3,800	104.0%
営業損益	12	-50	-

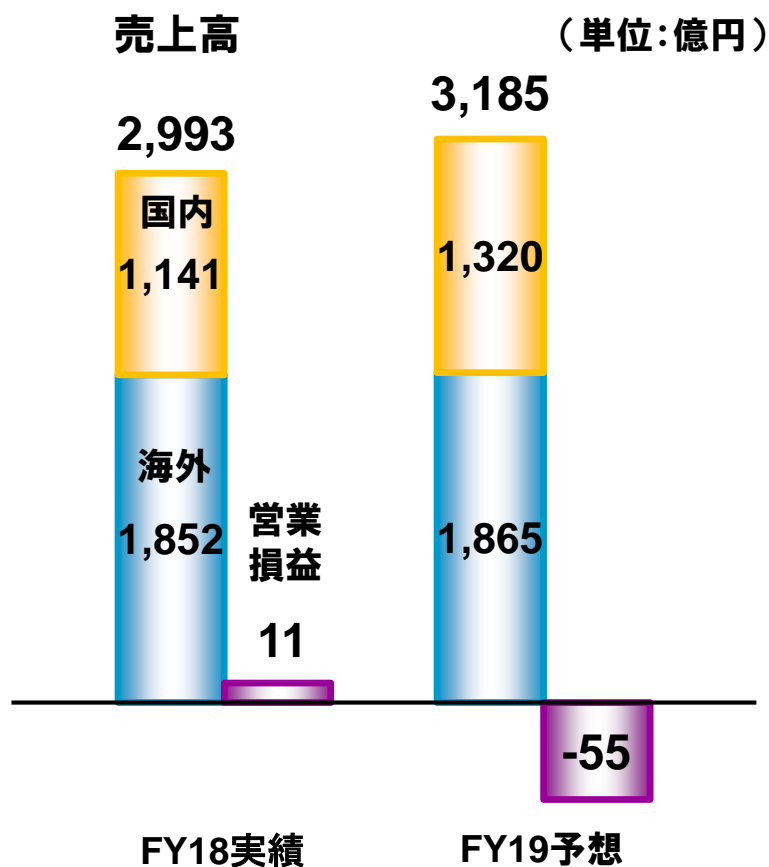
OEM事業の抜本的な見直し施策を策定中。

当期純損益の予想の開示は、その影響額が確定するまで留保する。

為替 前提レート	1米ドル	110.85円	109.77円	-1.0%
	1ユーロ	129.70円	130.02円	+0.2%

- 注) 1. 残り9ヵ月間の予想レートは、1米ドルは110円、1ユーロは130円を前提にしています。
 2. 1円の円高インパクト(残り9ヵ月間)は、売上高では、米ドルは▲約12.3億円、ユーロは▲約1.6億円、
 営業損益では、米ドルは+約1.4億円、ユーロは▲約1.2億円。

2019年3月期予想：カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 56% (前期 58%)

前期比	106% (国内116%、海外 101%(現地通貨ベース 102%))
増収要因	OEMカーオーディオ、テレマティクスサービス、市販カーオーディオ
減収要因	特になし

< 営業損益 >

前期比	66億円の悪化
良化要因	売上増に伴う売上総利益の増加
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加、原価率の悪化、為替影響

< 出荷台数 >

(単位:千台)

	FY18実績	FY19予想
市販カーナビ	559	600
市販カーCD	5,324	5,600
市販カーAV	1,486	1,900

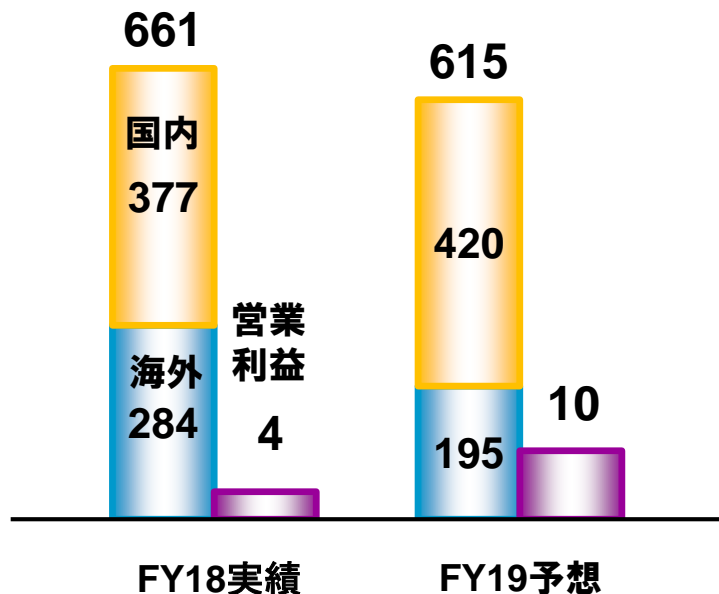
注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

市販は前期並みの営業利益を、OEMでは赤字拡大を見込む

2019年3月期予想：その他

(単位:億円)

売上高



< 売上高 >

前期比	93% (国内 111%、海外 69%(現地通貨ベース 69%))
増収要因	光ディスクドライブ
減収要因	FA機器(一部事業譲渡*)、ホームAV

< 営業利益 >

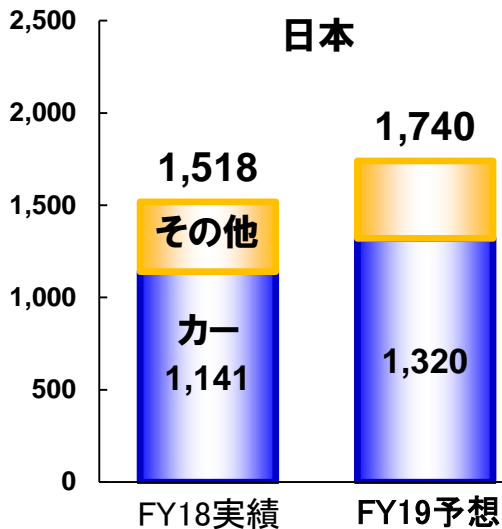
前期比	6億円の良化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少 原価率の良化
悪化要因	売上減に伴う売上総利益の減少

* 2018年6月に、電子部品関連のFA機器事業(株式会社パイオニアFA)を譲渡しました。

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2019年3月期予想：地域別売上高

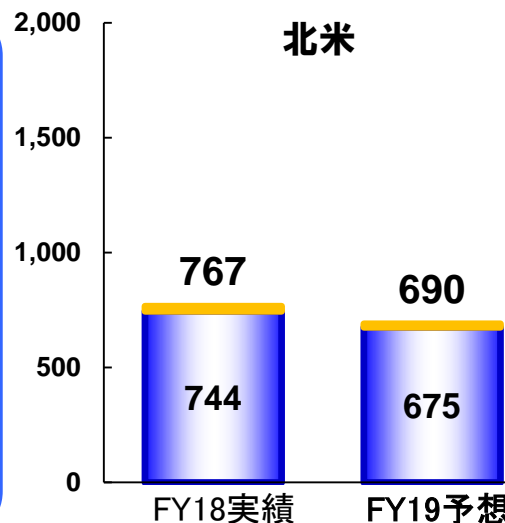
(単位:億円)



前期比
115%

増収要因
テレマティクスサービス
OEMカーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ
市販カーナビゲーションシステム
地図ソフト

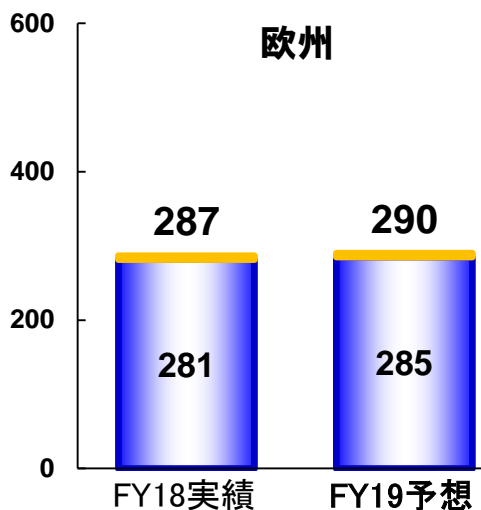
減収要因
特になし



前期比
円ベース: 90%
現地通貨ベース: 91%

増収要因
特になし

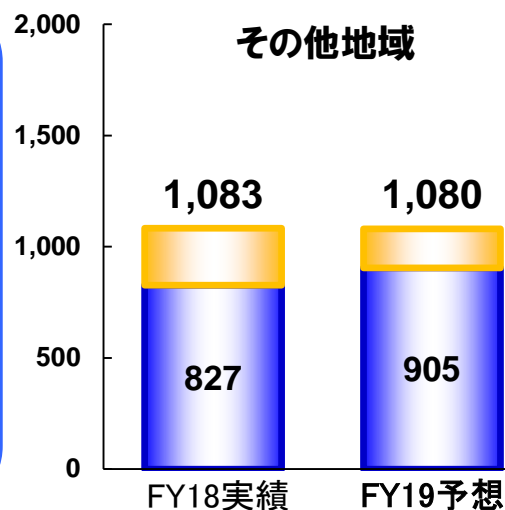
減収要因
OEMカーナビゲーションシステム



前期比
円ベース: 101%
現地通貨ベース: 101%

増収要因
OEMカーオーディオ

減収要因
特になし



前期比
円ベース: 100%
現地通貨ベース: 101%

増収要因
市販カーオーディオ
OEMカーナビゲーションシステム
OEMカーオーディオ

減収要因
FA機器
ホームAV

2019年3月期予想：研究開発費、減価償却費、棚卸資産

前回予想から変更ありません。

(単位:億円)

	FY17実績	FY18実績	FY19予想
研究開発費 (売上高比率)	239 (6.2%)	259 (7.1%)	300 (7.9%)
減価償却費	249	206	290
棚卸資産	498	501	545

カーエレクトロニクスの施策と進捗

事業	施策	直近の進捗
OEM事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスパートナーとの合併会社化などを含め、事業、体制の抜本的な見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・抜本的な見直し施策については、秋頃の発表に向けて協議、交渉中
市販事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国市場を中心にスマートフォン連携機能を強化した新製品や、音を中心としたエンタテインメント性を追求した新製品の市場導入 ・テレマティクスサービスやソリューションビジネスなどの新規事業のさらなる強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり、5月から新製品の市場導入を順次開始 ・テレマティクスサービスの売上は順調に拡大
地図事業・自動運転関連	<ul style="list-style-type: none"> ・HERE Technologiesとの連携強化 ・高精度地図の開発 ・3D-LiDARの製品化に向けた、今秋のセカンドサンプルの出荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・3D-LiDARの開発は順調に進捗、2018年モデルとして9月から順次出荷を予定

Pioneer